

主題	孤立傾向がある方の意欲を引き出し、少数レクを通してつくる新たな友達の“和”
副題	～孤立傾向から、少人数ではじめる共同制作を通して～

施設生活の向上	
---------	--

研究期間	3ヶ月	事業所	介護老人福祉施設・けんちの里
------	-----	-----	----------------

発表者：田中 康平（たなか こうへい）	アドバイザー：
---------------------	---------

共同研究者：和田輝正、浦本岬、本澤文雄

電 話	042-472-0657	メール	takasaki@kenchi-sato.or.jp
FAX	042-475-7796	URL	http://www.kenchi-sato.or.jp/

今回発表の事業所やサービスの紹介	平成元年に東久留米市内に最初にできた特養です。特養100名、ショートステイ6名の合計106名が利用されています。「けんち」とは仏典に見知（けんち）または知見（ちけん）という言葉があり、悟りを意味します。「けん」を健康の健に、「ち」を知識・知恵の知にかけて、健康で知識豊かに人生の悟りを開いたお年寄りの集う里という意味を込めて「けんちの里」と命名されました。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

けんちの里には100名の方が入居されていますが、お客様の中には、施設の活動に参加されない、孤立傾向にある方が必ず存在します。

けんちの里はボランティアの協力も多く、施設のレクリエーションは、とても充実しています。また個別対応にも力を入れており、お客様一人一人のニーズに合わせて個別のレクリエーションも実施していますが、いくら充実していても、無理をして集団レクリエーションに参加するのであれば、楽しいはずもありませんし、孤立傾向にあるお客様にとっては、個別のレクリエーションも「一時の楽しみ」を提供できただけなのではないかという疑問を感じていました。

孤立傾向にあるお客様の生活全体の質を向上させることと、そのための手段を検討する必要がありました。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

○目標

孤立傾向にあるお客様の生活歴や趣味を活かして、自分から参加したいと思える活動を少人数で実施することで、新たな人間関係、友達を作り、孤立傾向を解消して、生き生きと施設での生活そのものを楽しむことができるようになる。

○期待される成果・目的

- ・居室で過ごすだけの日々から、友人と活動を楽しむ生活への変化。
- ・新たな人間関係、友人関係をきっかけに既存の活動にも参加する意欲を持つことができる。
- ・意欲ある生活を送ることでADLの維持・向上につながる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

☆少人数で行うサークル活動の実施

○対象者の選定

- ・ 比較的孤立傾向があるお客様2名。

○具体的な取り組み

①折り紙サークル

- ・ 週に1～2回実施、作品を近隣の保育園にプレゼントするという目標を設定して、活動に一体感がでるよう配慮した。

②料理サークル

※対象者のうち1名が折り紙に強く拒否され、改めて希望を聞いてみると「料理がしたい」とのことで、別に実施してみることにした。

- ・ 月2回程度実施、施設の納涼祭で、模擬店出店するという目標を設定した。

③活動

- ・ サークル活動は対象者を含めた少人数（4～5名）で実施する。
- ・ 作品の完成度よりも、交流の機会とすることに重点を置いて支援する。
- ・ 多くの実施回数を確保できるよう、ボランティアに協力を依頼する。
- ・ これらの活動を行うため、人員配置等について全職員に理解と協力を依頼した。

《4. 取り組みの結果と考察》

折り方を教えてあげたり、教えてとお願いされたりといった交流の中で、また、純粋に好きな料理を楽しまれる中で、対象者の2人は自然に打ち解けて、とても良い表情をされていました。さらに、どちらの活動においても、お客様同士で作業や工程を確認しあったり、さらには出身地を教えあったり等の会話が自然と生まれていました。

《5. まとめ、結論》

活動に参加せず、孤立するお客様には、それぞれそうなる理由が存在していますが、決して意欲がないのでは無く、きっかけ次第で潜在的な意欲を引き出すことができ、そうした意欲の活用が孤立傾向の解消の大きな力になり得ることがわかりました。

今後は孤立傾向にある方に限定せず、「生活の中に楽しみがある」のではなく「生活そのものが楽しい」施設を目指し、今回の研究を今後に生かしていきたいと思います。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人・ご家族に文書又は口頭で確認し、研究発表での個人情報等の使用許可の同意を得ています。

《7. 参考文献》

《8. 提案と発信》

近年介護の世界では「個」が重視されますが、人の生活に他者との関わりは不可欠であり、他者との関わりがあるからこそ、人間らしい生活になるのだと思います。

「生活の質」は個別と共同・共生の両面の充実があって初めて向上するのではないのでしょうか。

【メモ欄】